



寺院建築と数寄屋造りが入り混じる珍しい武家屋敷

石火矢町にある武家屋敷、旧埴原家は120石から150石取りで、近習役や番頭役などを勤めた武士の住宅です。
主屋は、江戸中期の建築として平屋建ての建物で、風流やわびさびの世界を形にした数寄屋造りと寺院にみられるような建築様式が混在した珍しい建物です。
藩主板倉勝政公の生母の実家であることもあり、風格を備えた武家屋敷で、市の重要文化財に指定されています。

◆ 施設のおすすめ

旧埴原家は、武家屋敷でありながら、寺院建築や数寄屋造りの趣を有した建物になっています。
屋根の棟下に懸魚と呼ばれる板を取り付けたり、建物内の火燈窓と呼ばれるお寺で見えるような窓などは、寺院建物の特徴です。一方で柱に木の皮を残した面皮柱や、柱を省略した床の間、下の方に作られた下地窓は数寄屋造りの特徴でもあり、建物への手の込んだ造りを鑑賞できます。

◆ 子どもたちへのメッセージ

武家屋敷の中でも、寺院建築と数寄屋造りが混じる旧埴原家は、当時の趣を伝える貴重な建造物です。屋敷のいろいろなところで見ることのできる多くの装飾は、藩主板倉勝政公の生母の実家としての屋敷の格式を感じられると思います。



玄関



玄関臺股の装飾



奥座敷



火燈窓



柱省略の床の間



下地窓



縁側



懸魚